

フィンランドの建築発展背景

□フィンランド

北ヨーロッパに位置する共和制国家。北欧諸国の中一つであり、西にスウェーデン、北にノルウェー、東にロシアと隣接する。首都はヘルシンキ。19世紀に入るまでスウェーデン・ロシアの支配下にあった。

□フィンランドの建築

19世紀に入り、ドイツの建築家カール・ルートヴィヒ・エンゲルによって格子状の完全な都市が設計され、白い色調の新古典主義の様式の建物、庁舎・大学・病院などの約30あまりの公共建築が建てられ、フィンランドの新首都は計画都市となっていました。フィンランドに完全なヨーロッパ建築が出現した。



□カール・ルートヴィヒ・エンゲル（独）

19世紀のフィンランド建築上、最も著名な建築家。1816年にフィンランドへ移る以前には、市の建築家として働いたエストニアのタリンや、ロシアのセント・ピーターズバーグで仕事をした経歴を持つ。1816~1824年の間、ヘルシンキの公共建築物をデザインする役目を担う再建委員会の建築家として働き、その後、フィンランドの公共建築を監理する責任者に任命された。エンゲルの建築デザインにおいて主要であったエンパイア様式は、パラディオ式新古典主義の変形であり、ローマの神殿に似て、円柱や壁柱、ペディメント、建物外観の調和の取れた色彩を重視している。彼の公共建築監理責任者としての在職期間中に、エンパイア建築は当時のフィンランド建築に多大な影響を及ぼし、フィンランドにおける優良建築の手本となった。よって、都市デザイン事業の責任者という大役を任せられ、彼の最も重要な仕事であり、長い歳月を費やして設計されたヘルシンキ大聖堂は、現在のヘルシンキで最も有名な建築物となっている。

□ロシア革命

1917年にロシア革命があり、フィンランドは独立国家を果たす。長い間他国の支配下にあったフィンランドは民族性を大切にするようになる。ヨーロッパから離れて独自の国へ...

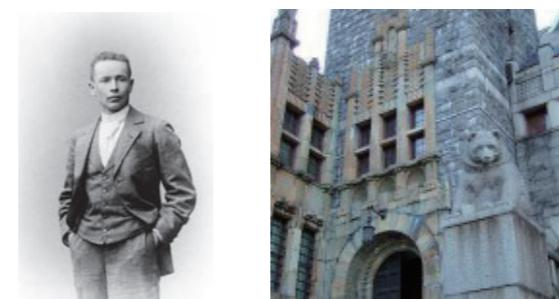
ナショナル・ロマンティズム

フィンランド的・フィンランドらしさ。20世紀を迎える中でヨーロッパでは今までの古典主義の歴史的な建築様式を否定、過去を斬切り、アールヌーボーなど新しい建築表現を模索するようになった。北欧もヨーロッパと同様に近代化への新しい道を探していた。しかしその方向性が少し違ったために、独自性が育まれた。

□カレワラ

フィンランドの叙事詩である。自然との共存が表現されている。

ナショナルロマンティズム建築例

□エルエリ・サーリネン（芬）
1910~1961

右図：フィンランド国立博物館（1901~1910）の熊の像はフィンランドの花崗岩が使われていて「カレワラ」からとられたモチーフ。

□タンペレ大聖堂（ラーシュ・ソンケ）
1899~1907
フィンランドの花崗岩が使われている。□ヘルシンキ駅
1904~1914
フィンランドの花崗岩が使われている。

Aalto



□アルヴァ・アアルト（芬）

1898~

20世紀を代表する建築家であり、フィンランド出身。自然と建築の融合を目指した。1924年、建築家アイノ・マルシオと結婚。ハネムーンに出かけたイタリアで地中海文化に触れ、生涯にわたる影響を受ける。

- 建築家
- 都市計画家
- デザイナー
- 家具、ガラス食器
- 絵画

Aalto 建築



□ユバスキュラ労働者会館

1924~25

ネオクラシズムへの影響
新古典主義に基づく作風であったが、同時期に設計されたトルン・サノマト新聞社から、モダニズムの作風へと転じた。

□ヴィーピリの図書館
1927

木の手すりなどアールの建築スタイルを定着させた。図書館に見られる波形にうねる曲線による木製の天井は、モダニズムの空間に相反するフィンランドの伝統的材料である木材を用いることで、アールのモダニズムのあり方を押し進めるきっかけとなり、曲線と木材の使用はアールの作風の一つともなった。これをさらに押し進めたのがパリ国際博覧会フィンランド館（1937）、ニューヨーク国際博覧会フィンランド館（1939）のうねる壁面や、マイア邸での木材の使用であり、同時にデザインされたアール・ベースである。

□パイミオのサントリウム
1929~33

北欧においてモダニズム建築が台頭するきっかけになった作品の一つであり、アールが国際的な建築家として知られる出世作となった。また、同時にCIAM（近代建築国際会議）の終身会員に選ばれ、ワルター・グロピウス、ル・コルビュジエらと知己になり、人間的な近代建築を生み出すことに生涯をかけた。現在は病院として機能している。

□ヴィーピリの図書館
1927

Aalto 家具

□マイレア・グリクセンと家具会社 ARTEX 設立
1935

アールがデザインした家具は、アルテック社(en:Artek)が製作・販売している。この会社はアールの事務所の所員ニ尔斯・グスタフ・ハールの紹介で知り合ったマイレア邸の施主、ハッリとマイレのグリクセン夫妻とハールと妻アイノと1935年に共同設立された。

□セイナツツアロの役場
1950

セイナツツアロはフィンランド中部の街ユバスキュラの郊外、湖に浮かぶ島。深い森と湖に囲まれ、製材工場を中心に出た比較的新しい小さな集落だ。この建築はそのコミュニティの中心施設として建てられた。

□西ドイツ・エッセンのオペラハウス
1959

平行な面が全くない自由形の建物。アールの自由な空間の典型。